

令和2年度ユネスコスクール中四国ブロック大会 アンケート結果 まとめ

【アンケートに関する基本情報】

①対象者

大会申込者・参加者(発表者含む)約50名。(大会終了時の参加者は左記の2-3割減であったと思われる)

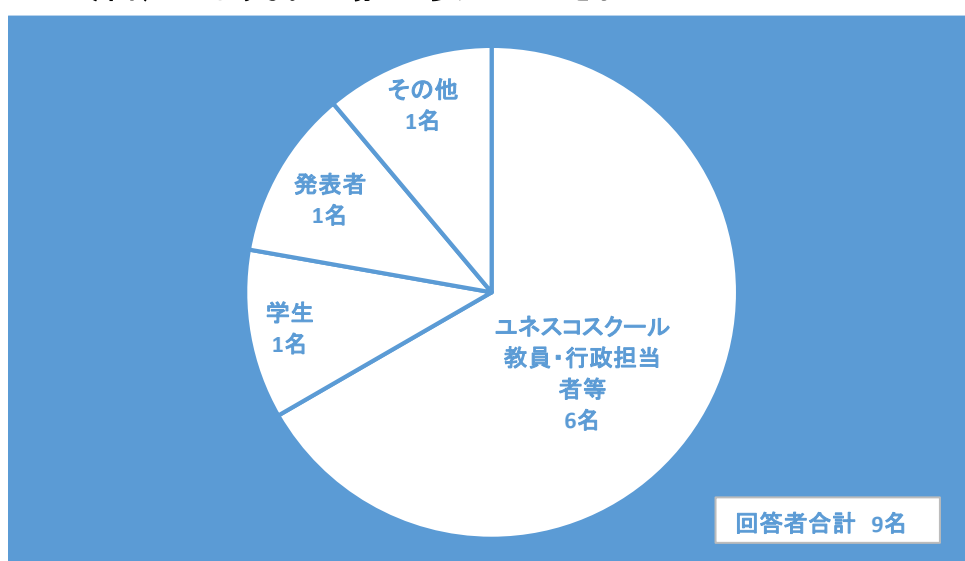
②依頼方法

大会終了後、申込時登録メールアドレスにアンケートURLを案内。

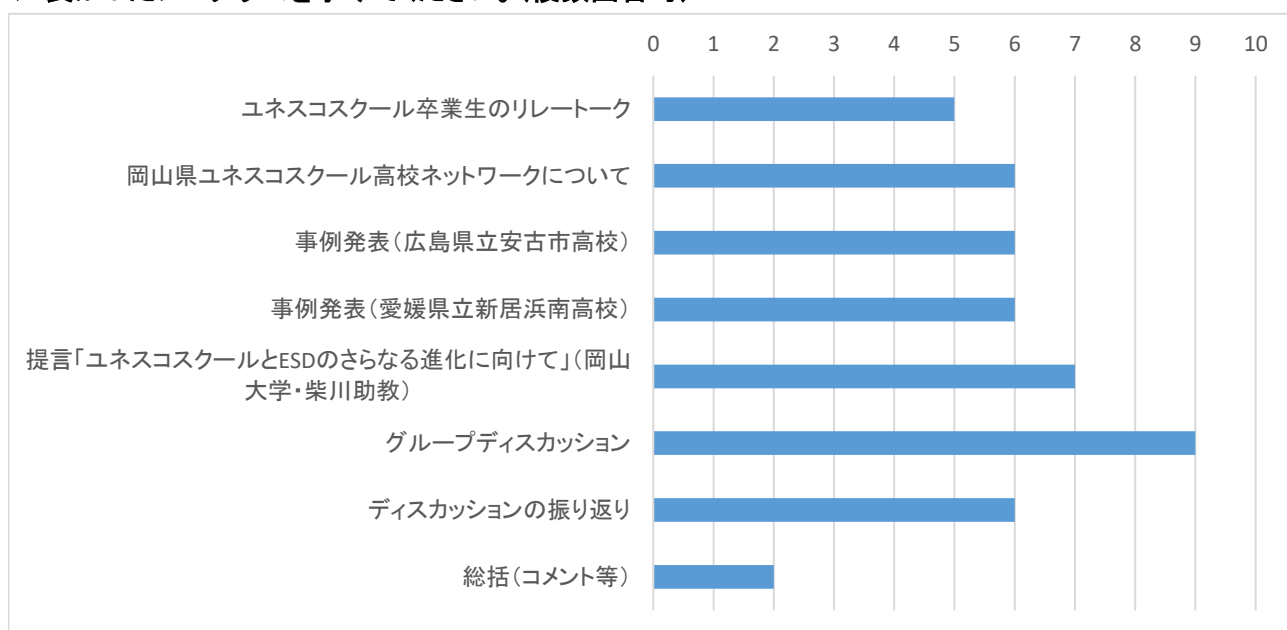
③収集期間

2020年11月28日～2020年12月21日

Q1. 今回、どのようなお立場でご参加いただきましたか？



Q2-1. ユネスコスクールとESDの取組をさらに広げ深めていく上で、今回の大会を通して、参考になった／良かったプログラムを挙げてください。(複数回答可)



Q2-2. 具体的にどのような点が参考になった／良かったかお聞かせください。

話し合いのテーマがまさにどこの学校でも問題になっていることだと思うので、良い機会になった。
ネットワークを構築することの重要性を感じた。 また、継続した地域との連携も活動を持続、発展させるために効果的であることがわかった。
グループディスカッションで、発表者の方々も交えてESDの取組についての課題を考えたり意見交換を行うことができ、発表の要点も同時に整理しながら実情を知られた点が良かったです。
・自校の課題が見えたこと。 ・他校や他県の実践を知ることができたこと。
自分の抱える問題に関する情報をいただいた。
ネットワーク構築の仕方、特に工夫した点
アウトプットすることで、ESDに対する認識を共有することができ、共通点や差異点を明確にできたため。
現場、立ち位置により、それぞれの課題があり、解決しようとされていること。

Q3. ユネスコスクールとESDの取組をさらに広げ深めていくためのアイデアをお寄せください。

ESDを広め、仲間を増やすのは難しい。解釈が多岐に及ぶため。しかし、SDGsになった途端企業が動き出し、大学がそれに反応した。すると高校現場では今の取り組みをSDGsと結びつけようとする動きがあったという間にできた。教員にも生徒にも、今はSDGsは大事な概念だという共通認識ができています。(人それぞれなぜ大事かというポイントは違うが)ESDを広げ深めるにはまずSDGsをしっかりと広げ深める取り組みが皆無だと思われる。
高校では、SDGsの視点を用いての探究的な学習が広がりつつあるが、単に17のゴールと関連付けているだけの活動も多く、持続可能な開発についての学びが深まっていない場合もある。 教員もどのように深めればよいのか悩んでいる場合もあり、そこでESDの考え方は非常に重要になってくる。SDGsの4ではなく、SDGsを学ぶESDを展開していけるのではないだろうか。
・自校において、学校経営計画の中に位置付けたり、ESD研修を繰り返し行う等、まずは学校全体でユネスコスクールについての認識を広げる。 ・自校を取り巻く身近な地域資源が活用できるように、様々なところと連携し、自校をアピールする。 ・日頃から、様々なことを、自分のこととして考えることができる、児童生徒や教職員を育てる。
①ユネスコスクール・ESDに取り組むことの優位性を数値で可視化する。 ②取り組んでない学校との差異を明らかにする。 以上の2つが最も効果をなすことかと思いますが、学校間の対照実験を行うことの難しい日本で2番を行うのは困難なことかと思われます。海外の資料でもあればそれでも有益だと思います。
・ESDをわかりやすく伝えるためのキーワードを集める ・ユネスコスクールやESDの活動をどのように通常のカリキュラムに落とし込んでいるかの事例紹介
ユネスコスクールやESDについての認知度が学校現場でまだまだ低い現状があると思うので、既存のネットワークをより活用・周知したり、SNSをより有効活用したりして、管理職や担当者だけではなく方々へのアプローチが必要だと思います。
もどかしさもあるかと思いますが、各校の実情に応じて、焦らず進めることもありかと思います。 これからは各教科でもSDGsに関する教材が多く取り上げられると思います。教科学習と総合・特活との連携も有効ではないでしょうか。

Q4. そのほか、今回の大会の感想をお寄せください。

少人数だったのが雰囲気良く参加しやすかった。じっくりと皆さんの意見が伺えて、参加して良かったと思えました。お世話いただきありがとうございました。

活動を振り返る貴重な機会になりました。ありがとうございました。

具体的な実践や意見、アイデアを聞くことができ、勉強になりました。ありがとうございました。

全校でユネスコスクールとして取り組むためには一定時間をそれに充たせなければなりません。既に割り当てられている特別活動や教科授業を削ってでもそれに取り組むためのメリットがはっきり見えなければ教員や生徒への浸透は難しいです。受験生でもそれに向けて取り組みたいと思えるぐらいのメリットが示していただけるのかと思ったのですが、その点では少々期待外れの感があります。

とても参考になりました。ありがとうございます。企画、運営、お疲れ様でした。

ESD活動といった取組や高校・大学連携という仕組みの構築が成果として挙げられる一方、取組や仕組みの見直しや改善の状況はどうなっているのかが知りたいと思いました。ESDの活動は楽しいから行うという動機づけだけではなく、教育の本質的な持続可能な社会の概念の形成とESD活動といった部分の検証を小中高大の各発達段階でできると研究成果の普及につながっていくと感じました。

せっかくの機会を頂いたのですが、冗長な発表となり申し訳ありませんでした。オンラインはなかなか慣れません。

若い世代の率直な感想を聞くことができ、参考になりました。「持続可能性」という切り口で考える機会をさらに増やす仕組みが必要であるように感じました。